

平成26年度 第3回 伊勢市地域自立支援協議会 会議要旨

開催日時	平成26年8月21日（木）午後18時00分～
開催場所	伊勢市役所東庁舎4-2会議室
出席委員	浦田宗昭委員、笹山武志委員、中井真知子委員、前村裕司委員、 松崎まみ委員、岡部浩美委員、山本とみ委員
欠席委員	山路克文委員、齋藤茂委員、丸谷紀子委員
事務局	高齢障がい福祉課長、係長 伊勢市障害者総合相談支援センターフクシア職員2名
傍聴者	5名

1. 各課題別チームよりの報告

各チームで検討された、策定中である伊勢市障害保健福祉計画への意見、およびアンケート結果への意見、さらに各チームで継続検討している地域ニーズへの取り組み状況等を、以下のように報告。

○いきいきチーム

- ・伊勢市障害保健福祉計画について

「伊勢モデル」：全国の先駆的事例を見学や勉強して、伊勢モデルを作っていけると良い。

- ・アセスメントシートの統一について（情報共有、目標共有等）

「パーソナルカルテ」：伊勢市版パーソナルカルテが9月より運用開始されたが、就労等へ向けては、成人版パーソナルカルテも見据えて、18歳以降の就労支援に必要な項目等を提案、紹介出来る様に検討していく。

○せいかつチーム

- ・伊勢市障害保健福祉計画について

「精神疾患への理解不足」：家族、地域社会の状況により、利用できる福祉から遠ざかってしまう状況があるため、小学生の授業等にて、理解促進を図る内容を組み入れる等も必要である。

「理解し合える機会の不足」：障害のある方と実際に接する機会が無いために理解が深まらない事があり、日常から地域の防災訓練に参加出来る等、理解しあえる機会が必要である。

- ・伊勢市障害保健福祉計画アンケート結果について

「分析の仕方」：どのように分析するかが重要であり、相関関係が分かるようにクロス集計等が必要である（どの障害の時にどの困りごとがあるのか等）。

- ・「相談支援センターフクシアの周知」：フクシアを知らない方が多く周知が出来ていない。また、フクシアの現状の上で、さらに周知された時に対応可能か人員等を含め検討頂く必要はないか。

○していますか

- ・伊勢市障害保健福祉計画について

「相談支援体制」：現時点での相談ネットワークや、ライフステージにおける相談の繋がり等が、特に関係機関が多岐にわたるこどもに関する部分で分かり難い。相談窓口はワンストップであると分かり易く、そうでないならば情報共有の仕組みが必要である。

「本人・親への早期支援、継続支援」：

早期から親に丁寧に寄り添い、障害受容や相談につなげていくことが重要であり、早期に親に

も本人にも適切にかかわることが必要である。また、本人低年齢で把握された支援の必要性が継続されず、二次障害的に精神障害になることも多く、保健師と連携した一次予防が必要。

・こども部会について

伊勢市関係部署にてこどもに関する検討がされる際に、現場からの提案を行っていただけるように、現場にかかわる方々に委員になってもらう必要がある。

・パーソナルカルテについて

伊勢市版パーソナルカルテが運用開始されるが、作成して終わりではなく、現場で本当に活用されていくための運用の検討を継続する事が必要であり、上記こども部会でも検討していきたい

【各委員主な意見】

「災害時」：

- ・どこにどれだけ障がいのある方がいるのか分からないと支援も出来ず、地域で知って支えあえる仕組みがあると良い。

〔事務局〕災害時要援護者登録制度に、登録済約 3,400 人で、うち障がいのある方は約 400 人。現在自治会等にて啓発しており、今後も啓発していきたい。

- ・上記登録制制度も、必要性が伝わっていない現状もあり、また詳細な申請書への記入や、近所への援助依頼等が難しい面もある。

「サービス資源の不足」：

- ・ショートや日中一時等、受け入れ切れないニーズがある状況。
- ・各チームで資源が無いことは検討頂きたい。

「相談支援体制」：

- ・相談支援体制の人員は他市に比べて少ないという状況があったところであるが、障害者支援等につながっておられない方々はまだまだ潜在している状況である。
- ・相談ネットワークの必要性や部署をまたいだ連携等が各チーム訴えているところであり、各チームの枠を超えた議論にて整理できると良い。

・(圏域アドバイザーより：)

他圏域（県内 9 圏域）の自立支援協議会におけるこども部会的な部会の状況：

伊賀圏域のみ療育部会として部会があり、福祉、療育、教育の連携を課題としている。桑員圏域は部会はないが、発達障がい児の親のペアレントメンターとして、保護者の集う場作りを行っている。また、鈴鹿圏域では、発達障害に関する機関連携が課題になっている状況である。

「相談のしやすさ」

- ・ペアレントメンターは、行政や相談支援機関に相談するのはためらうが、同じ経験した親同士には相談しやすいというものであり、行政の中にそのようなシステムがあれば相談しやすい。
- ・市の障害者相談員についても、知らない状況であり広報が必要である。
- ・障害という相談窓口だと障害受容が必要であるため相談しにくいだが、就労相談や子育て相談には相談し易いため、それらその他窓口に必要な人が配置されると良い。

2. 伊勢市障害者保健福祉計画について（アンケート速報結果）

伊勢市障害者保健福祉計画策定にかかるアンケート結果について、今後クロス集計やグラフ等も使って結果分析をして、最終的に報告書を作成する予定であるが、現状確認出来る速報の範囲で報告。

以下、抜粋。

- ・将来の暮らしについて：身体障害ある方は自宅を望むが多く、知的障害ある方はグループホーム等が多く、精神障害ある方は一人暮らしが多い。
- ・働けるための支援や配慮について：身体障害ある方は短時間就労が出来ること、知的障害ある方は職場の障害理解、精神障害ある方は短時間就労や職場の障害理解が多い。
- ・災害時要援護者登録制について：特に精神障害のある方は知らない人が多い。
- ・ふだん嫌な思いをしたことについて：身体障害のある方や知的障害のある方に比べて、精神障害のある方は、よくあるという人が多い。
- ・今後充実すべき施策について：身体障害や精神障害のある方は医療費の減少を、知的障害のある方は相談支援やヘルパー等の日常支援充実が多い。
- ・(児童) 今後利用したいサービスについて：放課後等デイサービスが多い。
- ・(児童) 今後充実してほしい支援について：教育や療育の機会が多い。

【各委員主な意見】

- ・アンケートの質問には設問意図があるはずなので出してもらいたい。
- ・課題別チームに意見をもらいやすいように、コンサルにもっと細かくきちんと整理してもらいたい。
- ・伊勢市独自の課題をアンケートから拾ってもらう必要がある。
〔事務局〕今後の予定として、9月2日計画策定懇話会へ、アンケート集計結果、ヒアリング結果、全体進捗状況の報告等を行う。また、自立支援協議会の意見をどう反映させるかの資料を示して、各検討チームで検討頂く予定。
- ・(圏域アドバイザーより：)
県での市町研修等においては、途切れない支援、地域移行、就労が重点課題と言われている。先日の伊勢志摩圏域会議での圏域としての課題は、地域移行、就労であり、各資源の情報共有機会が必要等と話し合われている。

3. 伊勢市よりの報告

伊勢市より以下の状況について報告

○伊勢市版パーソナルカルテ（9月1日より開始）について

知的障害や発達障害等の方への幼少期から就労までの一環した支援を行うための情報引継ぎツールとして作成した。ライフステージに応じた継続したサポート受けやすくしていくことを目的にしている。高齢・障がい福祉課、健康課、学校教育課の窓口等で配布のほか、9月からは伊勢市ホームページにてダウンロードも可能。

○グループホームについて

現在、小俣で高齢者用グループホームとして運用しているものを、ニーズに合わせて障害者用のグループホームに転用していく予定。現在は公営であるが、民営化の方向であり、詳細は議会後の報告になる。

○地域相談支援の増設について

現状、伊勢市障害者総合相談支援センターフクシアが担っている地域相談支援について、相談の増加等にてフクシアだけでは対応しきれない状況であるため、今年度地域相談支援を2カ所増設予定。今後、公募を行い、年明け後に開設予定。

○手話言語法の制定を求める意見書について

聴覚障害者協会から議会に手話言語法の制定を求める意見書が出されている。手話が言語と認められると、障害者差別禁止法にある合理的配慮において手話の必要性が求められる等になる。

4. その他

○各会議からの提案事項について

各ケース会議等から、自立支援協議会への検討課題や提案等が提出されており、運営会議を経て、今後各チームで検討頂き、本会へ報告や提案を上げさせて頂くことになる。